

フィンランドの NATO 加盟（522号）

2023年 4月 石館

フィンランドは4月4日、北大西洋条約機構（NATO）の31番目の加盟国になった。ブリュッセルの NATO 本部前で行われた式典で、フィンランドの国旗が掲げられた。中立を長く国の基本的な外交防衛方針としていたフィンランドは、ロシアのウクライナ侵攻をきっかけに NATO 加盟へと動いた。



フィンランドがNATOに正式加盟し、NATO本部前にフィンランド国旗が掲げられた(4月4日)

フィンランドのニーニスト大統領は NATO 本部前の国旗掲揚式で演説し、“同盟に加盟することで、フィンランドは安全保障を得られる。他方でフィンランドは同盟に安全保障を提供する。

フィンランドは、NATO の全加盟国の安全保障に強くかかわり、地域安定を強化する信頼できる同盟国になる“と述べた。

“フィンランドの加盟は、特定の誰かを標的にしたものではない”とした上で、“フィンランドは行動が安定していて予見しやすい北欧の国で、紛争の平和的解決を目指す。フィンランドにとって重要な原則や価値は、今後も我々の外交の指針となる”と大統領は強調した。


振り返ってみると昨年6月29日、スペインで開かれた加盟国首脳会議で合意した文章“マドリード首脳会議宣言”を公表し、フィンランドとスウェーデンの加盟に向けた手続きを正式に始めることを明らかにした。両国の加盟には NATO 加盟国の承認が必要だが、クルド問題でトルコは難色を示しており、果たして両国の加盟はスムーズに行くか懸念があった。

フィンランドはクルド問題で、トルコに譲歩し、トルコのエルドアン大統領は2023年3月17日、フィンランドとスウェーデンの NATO への加盟申請を

めぐり、“誠実で具体的な措置を取った”として、フィンランドの加盟についてのみ国内で批准の手続きを取ることを確約した。

エルドアン氏は同日、トルコを訪問中のフィンランドのニーニスト大統領と首都アンカラで会談、その後の共同会見で、5月14日に予定されている大統領選・議会選の前に批准する意向を示し、フィンランドの加盟が事実上決まった。



トルコの首都アンカラで17日、訪問したフィンランドのニーニスト大統領（左）と握手をするトルコのエルドアン大統領=AP 

トルコの方針について、ニーニスト大統領は“フィンランドにとって歓迎すべきことだ”と言いつつ、“共通の利害を持つスウェーデンなしでは、フィンランドのNATO加盟は完了しない”とくぎを刺した。

と異なる姿勢を持っているわけではないと発言。ただ、約120人のテロリストを引き渡すよう要求したが、スウェーデン側が応じていないとし、“我々が建設的にアプローチすることは可能ではない”と述べて改めて対応を求めた。

エルドアン氏はスウェーデンについて、フィンランドに対するもの



フィンランド、NATO加盟「数週

フィンランドとロシアの国境は1340キロに及ぶ。（日本の東京と宮崎県くらいの距離である）フィンランドの加盟によって、NATO加盟国とロシアの国境との距離は倍の長さになった。NATO第5条は“欧州または北米における1ないし2以上の加盟国に対する武力攻撃は全加盟国への攻撃とみなす”と定めている。

つまりフィンランドが攻撃された場合には、アメリカを含むNATO全加盟国がフィンランドの防衛に協力すると決められている。

フィンランドの正式加盟を受けて、NATOのストルテンベルグ事務総長は記者団に“これによってフィンランドはより安全になり、NATOは強化される”と述

べた。“プーチン大統領はロシア国境での NATO の存在を減らし、欧州での NATO 加盟国をこれ以上増やさないと、ウクライナ侵攻の目的として挙げていた。しかし、ウクライナ侵攻によって正反対の展開になった”と、事務総長は指摘した。ブリンケン米務長官は”このことだけはプーチン氏に感謝したくなる”と述べた。

フィンランドと共にスウェーデンも加盟を申請したものの、トルコとハンガリーがまだ認めていない。トルコは、自分たちがテロ組織とみなすクルド武装勢力をスウェーデンが支援していると非難している。



フィンランドのハーヴィスト外相(左)が加盟文書をアメリカのブリンケン国務長官に渡し、NATO加盟の手続きが完了した(4日、ブリュッセル)

フィンランドの加盟文章をブリンケン長官に手渡したハーベスト外相は、加盟国として真っ先に“スウェーデンの加盟を承認する文書を渡すこと”が自分の重要な役割だと話した。

フィンランドの加盟で NATO の安全保障体制は大きく強化される。同国は徴兵制で、数万人規模の常備軍に加え非常時の動員制度もある。サンクトペテルブルグなどロシアの主要都市や軍事基地を他の加盟国と取り囲む形になり、ロシアに対し大きな圧力となる。

NATO は欧州東部の防衛力を強化するため“戦闘群”と呼ばれる事実上常設部隊を倍増し、ルーマニアやブルガリアなどに設置することは決定済みだ。今後は NATO としてフィンランドでの防衛体制をどれだけ強化するかが焦点となる。

NATO 加盟を手掛けたマリン首相



ロシア軍 フィンランド国境に移動か...北欧2カ国 NATO加盟に意欲 ...

一方4月2日に投開票されたフィンランド議会選(定数200)は、中道右派の国民連合が第一党となった。NATO加盟を手掛けたマリン首相率いる中道左派の社

一方4月2日に投開票されたフィンランド議会選(定数200)は、中道右派の国民連合が第一党となった。NATO加盟を手掛けたマリン首相率いる中道左派の社

会民主党は第3党に転落し、マリン首相は辞任する。国民連合も親 NATO 路線を掲げており、加盟方針は変わらない。今後は第2党の極右政党との連立協議が焦点になる。



2019年に世界最年少の34歳でトップに就いたマリン氏はロシアのウクライナ侵攻後、NATO加盟交渉を牽引した。マリン氏が掲げた NATO 加盟方針は国内でも支持が高く、EUで頭角を現した若手リーダーとして知名度が高かったが、選挙戦では膨らむ政府債務への対応策などが争点と

なった。選挙での敗北を受けて辞任する。

国民連合のオルボ党首は財政再建をしなければ将来の福祉政策に響くと主張。現政権の対応は不十分で歳出削減が必要だと批判していた。国民連合は厳しい安全保障環境を踏まえ、NATOには積極的に関与していく方針だ。

スウェーデンの加盟に関しては同国は人権問題で譲歩する見通しは少なくまだ道筋ははっきりしないが、トルコの5月14日の大統領選、議会選でエルドアン政権が敗北すると、より親西欧の政権が出来る可能性が高く、スウェーデンの加盟も前に進むのではないか。